

知っておきたい 診療技術

二次骨折を予防しよう —FLSチームの活動—

高齢者の骨折



高齢者の骨折は、転んで手をついた、しりもちをついた、重いものを持ち上げた、などの軽微な外力によって生じるという特徴があります。このような骨折を脆弱性骨折といい、骨折の背景には骨粗鬆症が隠れています。しかし、骨粗鬆症そのもの

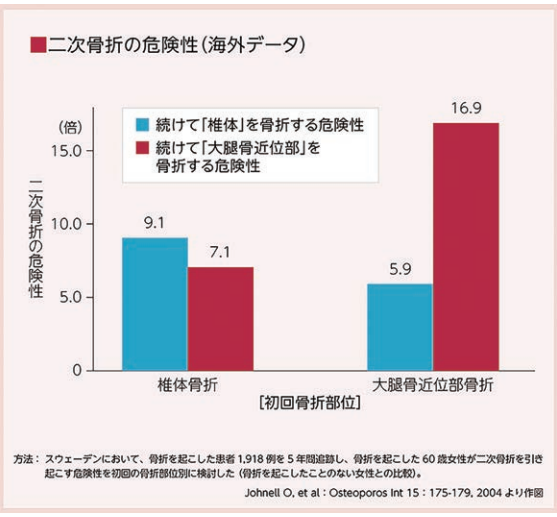


図1 二次骨折の危険性(海外データ)
(画像提供:ユーシービージャパン株式会社
<https://www.flscollege.jp/orientation/background.html#section1>より)

は症状がなく、骨折して初めてわかる場合がほとんどです。一度脆弱性骨折を生じると、二次骨折(同じ、または別の部位に起こる脆弱性骨折)の危険性が高いことがわかっています(図1)。また、脆弱性骨折の中でも大腿骨近位部骨折は、歩行に必要な太ももの付け根あたりへの骨折であるため、その後の生活に大きく支障をきたします。

「骨折リエゾンサービス (FLS)」とは



脆弱性骨折後の患者さんに対して、適切な骨粗鬆症治療をマネジメントし、二次骨折を予防しようとする取り組みを「骨折リエゾンサービス (Fracture Liaison Service: FLS)」といいます。FLSは多職種

のチームにより、骨粗鬆症の「治療開始率」「治療継続率」を上げ、転倒予防などを行います。当院では2022年10月にチームを立



ち上げ、活動を開始しました。特に高齢者に生じた大腿骨近位部骨折の場合、それだけで骨粗鬆症の治療が必要と判断されます。FLSチームでは、二次骨折を予防するために骨密度測定や骨代謝マーカーなどの検査を行います。また、転倒のしやすさや、周囲へ注意が払えるかなどの認知機能も評価します。

骨粗鬆症の患者さんは主に薬の内服による治療を行います。が、治療はそれだけではありません。日々の食事でバランス良く栄養を摂取することも重要です。FLSチームでは管理栄養士が食事の摂り方についても丁寧に説明を行います。

地域における

FLSチームの活動



大腿骨近位部骨折の治療後、リハビリテーションの継続のため当院のように回復期リハビリテーション病棟を持つ医療機関へ転院することがあります。その際には、病院間で骨粗鬆症治療に関する情報も共有する必要があります。

現在、当院と南長野医療センター篠ノ井総合病院、長野赤十字病院及び千曲中央病院では、各病院のFLSチームが中心となつて連携し、共通の書式を用いた情報共有を行っています。これは、それぞれの病院を退院した後、かかりつけ医を受診する際にも有用な情報になります。骨粗鬆症は高齢になるにつれてみずから予防に取り組む必要がある疾患です。私たちFLSチームは、患者さんやそのご家族に骨粗鬆症に関する知識や注重点等を専門のスタッフが説明することで、取り組みのきっかけや継続する助けとなるよう活動を行っています。(整形外科統括部長 北原 淳)